

南飛驒 ぼうさいかわら版

目次

- P-2 ・ 小学生夏休み福祉体験学習2017
- P-3 ・ ひだ金山まちづくり協議会とHUG共催
- P-4 ・ おらんとこの自主防災（萩原町 奥田洞区）



下呂市社会福祉協議会 ☆小学生夏休み福祉体験学習2017☆

いざという災害にそなえ、みんなで学ぼう！つながろう！！～君も地域の一員だ！～

「児童が福祉活動を体験し、仲間との協力や地域の人々との交流を通して思いやりや助け合いの大切さを学び、普段の暮らしの中で自ら考え行動出来る心を育む」を目的に、各地域の5・6年生を対象にして防災について2日間の体験学習を行い、参加児童の100名全員に修了証が手渡されました。

【萩原 7月27.28日 5年生13名・6年生5名】



防災倉庫には、何があるのかな

☆事業協力 防災士2名・女性消防団1名・民生児童委員
地域ボランティア「銀の鈴」

- * 過去に起きた地震や風水害の写真を見て、どのような災害があるのか学習しよう。
- * 「自分の身は自分で守る」、地域の人達で助け合う、「自助と共助」について学習しよう。
- * 地震コース、風水害コースに分かれて、災害時に危険な所の発見や、災害に備えてある個所を見学しよう。
- * 発見した危険個所を、地図にシールを貼ってみんなになぜ危険かを説明してつたえよう。

【参加児童の感想文】

- * 災害時は自分を守る事が1番なので、「自分の身は、自分で守る」ようにしたいです。
- * 「地域の人達で互いに助け合う気持ち」を、みんなが日頃から持っていることが大切と思いました。
- * ふだんから地域の人にあった時は、「挨拶をする」「回覧版は一声かけて、手渡し」をしたいです。

【小坂 8月1.2日 5年生1名・6年生10名】

☆事業協力 防災士3名・配食ボランティア「あゆみ会」

- * 防災士さんに、災害について教えてもらおう。
- * 危険な場所を見つけたり、災害の備えを見に行こう。
- * 見てきた危険個所や備えを、マップに書き込もう。
- * まちに出て大人の人達に、災害について話を聞こう。
- * 学んだ事を伝えるため、B紙にまとめて発表しよう。

【参加児童の感想文】

- * 災害時に、どんな行動するか勉強が出来て良かった。
- * 「想定に捉われない・最善をつくす・率先避難者たれ」を覚えておきたい。



災害時に危険と思われる所の説明を聞きます

- * 大地震が起きても「自分が助かる事」で、まわりの人達を助けることが出来ると思いました。
- * お年寄りや、小さなこどもの避難がおそいようなときは一緒に連れて避難したいと思いました。
- * 自分一人では怖くて何も出来ないかもしれないが、地域の人達と協力すれば出来ると思いました。

【下呂 8月8.9日 5年生19名 6年生13名】

☆事業協力 防災士2名・民生児童委員・殿町町内会長

配食ボランティア(あすなろの会)

- * 災害って？ 防災って？ 防災士さんの話を聞こう。
- * 町へ出て災害への備え・危険な場所を見つけよう。
- * 地域の人達にはどんなつながりがあるのかな、
どんなつながりが作れそうかな。
- * 町に出て、大人の人達に防災について話を聞こう。
- * 調べたこと、考えたことを地域の人達に伝えよう。

【参加児童の感想文】

- * 危険箇所や、備えを知ることが出来て良かった。



公民館の備蓄品などのお話を聞きます

- * ひとり暮らしのお年寄りが災害について備えをしてみえたので、すごいなあーと思いました。
- * お年寄りの人達は若者とつながりが思ったより少なく、災害時の不安をもってみえるのが分った。
- * 「災害は無くす事は出来ないが、被害を減らす事は出来る」地域のつながりが一番大事と思った。

【金山 8月21・22日 5年生6名 6年生13名】

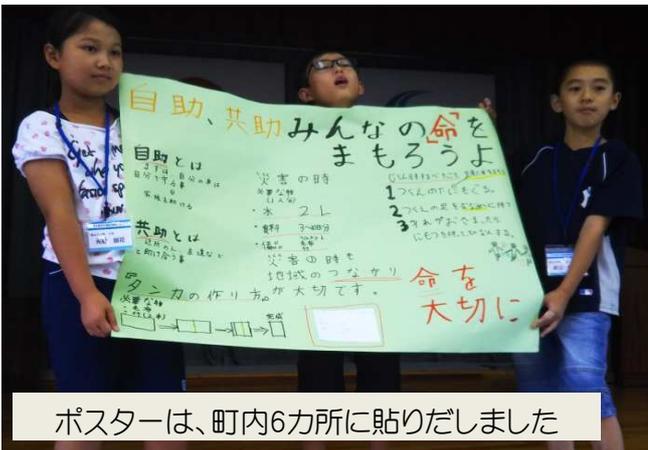
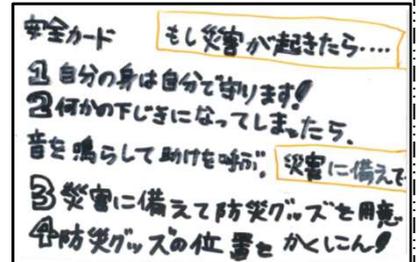
☆事業協力 防災士4名・民生児童委員・日赤奉仕団

配食ボランティア・調理師渡邊哲夫さん

- * 災害について学ぼう、身近の物を使って救急搬送。
- * 日赤奉仕団員とハイゼックス炊飯をやってみよう。
- * 自分達の住む町の、危険な所を探してみよう。
- * 町に出て災害について、いろんな人にインタビュー。
- * 災害について知ってもらうよう、ポスターを作ろう。

【参加児童の感想文】

- * 独居の人に、安全カード
を作って手渡しました。



ポスターは、町内6カ所に貼りだしました

- * 「3分間で身を守り、3時間で救助して、3日間の食糧準備」を憶えました。
- * 地震の時は「自助」を思い出し、正しい判断が出来るようにしたいです。
- * 「福祉とは、みんなの幸せを作ること」、この言葉を大事にして、みんなとの交流をふやしたいです。

【馬瀬 8月24.25日 5年生4名・6年生16名】

☆事業協力 防災士1名・民生児童委員・主任児童委員

配食ボラ(ハトポップの会)・馬瀬振興事務所

個人ボランティア2名・中切区、川上区の方々

- * 「災害は怖いもの」、自分で出来る備えを考えよう。
- * 災害が起きても、被害を少なくするにはどうすれば？
- * 災害に強い地域になるには、どんなことが大事かな？
- * 災害が起きそうな所や、備えを探してみよう。
- * 被災地で災害ボランティアをした方のお話を聞こう。

【参加児童の感想文】

- * 知らなかった被災地域の事や、災害の怖さがわかった。

- * 自分の住んでいる地域で災害が起きそうな所や、避難する所や通っていく道などが良くわかった。
- * つながりが強い地域を作るために、近所の人達にあいさつをしたり地域の行事に参加したい。
- * 新聞紙スリッパは役に立つので家族に教えたい。枕元に置く懐中電灯や笛、靴なども伝えたい。



土砂災害ハザードマップで、地域を知ります

ひだ金山まちづくり協議会とHUG(避難所運営ゲーム)共催 8月28日(日)

南支部が前年に引き続き金山市民会館で行い、まちづくり協議会員・民生児童委員・自治会・女性防火クラブ・防災士など32名が5グループに分かれて体験しました。進行役は河尻正敏防災士が務めて、初めて体験する人や、何やら訳が分からん様子の方も後半はつい夢中になる場面もあり、1時間半ほどのゲームが随分短く感じられました。ゲームが終わってから他グループの掲示板を互いに見て廻り、「ヘー！」「うーん！なるほど」などと納得やら、ため息が聞こえていました。



(参加者から、HUGを体験して思われたこと)

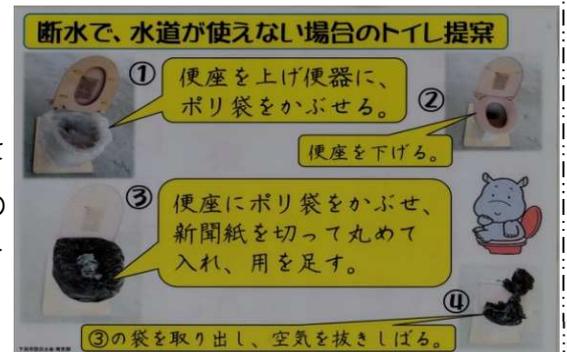
- * 実際に起きた場合のことを想定して、具体的に体験することが出来て大変勉強になりました。
- * 様々な事情をかかえる避難者を、体育館や校舎に適正に振り分けることの難しさが解りました。
- * 各地域のリーダー的な人々が、もっと参加されると良いと思います、次回も参加します。
- * 色々な判断をルール・データに対応することの大変さを痛感しました、運営指針があると良いと思います。
- * 何回体験しても新しい発見があります。多くの方が体験されて万一に備えた訓練が大切ですね。

ハートビート下呂2017

下呂交流会館

9月23日(土)

前回と同じく災害時のトイレ提案を行いました。実物の洋便器を使った展示は来訪者の目を引いていました。用意する物は大きめのポリ袋と新聞紙だけの手軽さが好評でした。油缶を再利用して作ったロケットストーブも初めて知った来訪者が多く、作成した防災士が丁寧に作り方や燃焼の原理などを説明していました。



おらんとこの自主防災

（萩原町）

奥田洞区の防災活動

— 奥田洞区の防災組織づくり —

『火災発生時』と『地震及び土砂災害発生時』の、2体系に分けた組織作りを行っています。

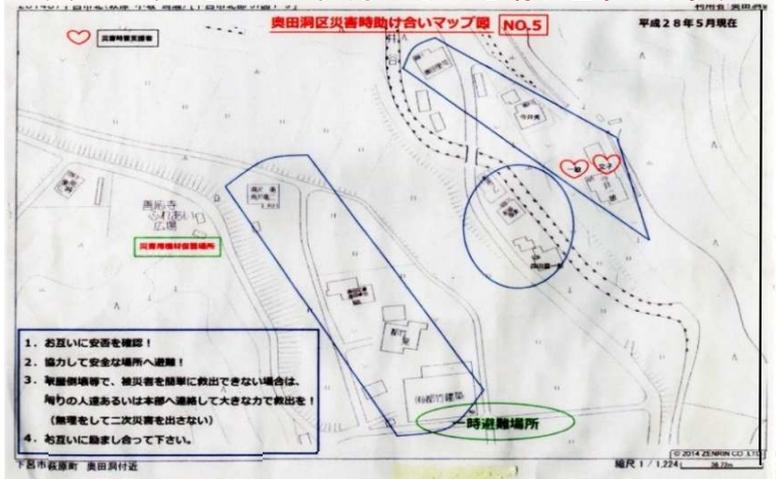
『地震及び土砂災害発生時』の発災直後は、1次体制(対策本部・情報通信班・調査・復旧班・救助班・医療班)で対応します。発災からある程度時間が経過してからは(食糧班・避難所整備班)を加えた、2次体制へと移行するような防災組織づくりを行っています。

全戸配布の「災害時助け合いマップ」

区内68戸のほとんどの民家が、地形の高低や谷などに阻まれて軒を接していないので、近くの民家を2戸から10戸程度のグループに分けてあります。万一の災害時には、グループ毎の安否確認・救助などの活動をします。

防災訓練もグループごとの防災行動から、近くのグループへと範囲を広げていきます。

（2戸～4戸でグループ分けされた助け合いマップ）



各戸の冷蔵庫に貼られた組織図と連絡表

公民館に新しく設置したAEDの訓練は、中学生も参加しました。



（力を合わせて、毛布担架で被救助者を搬送）



（医療班による火傷の手当実演）

（編集後記） 社協の小学生夏休み福祉体験のお手伝い途中の出来事。小グループで町に出て、大人たちに防災について質問をした帰り道の話。橋の近くを通りかかったので、児童達に橋を通っていて地震になったら急いでどちらかの方へ走って逃げる事、橋が壊れて落ちたら大変な事になる。といった後で「どっちへ逃げたらいいかな」と、さりげなく問いかけたら即座に「こっち」との返事。「なんで」と聞くと「あっちは山やで石が落ちてきたり、崖が崩れるかも知れんでアブナイ！」小学5.6年生とは思えない超模範解答！

自分が防災に無関心であった頃に同じ質問を受けたとしたら何と答えたらだろうか。

E-mail tuneki-jh2oqm@seiryu.ne.jp ☎090-2578-1601 ライン・FB可 広報担当 金子恒紀

